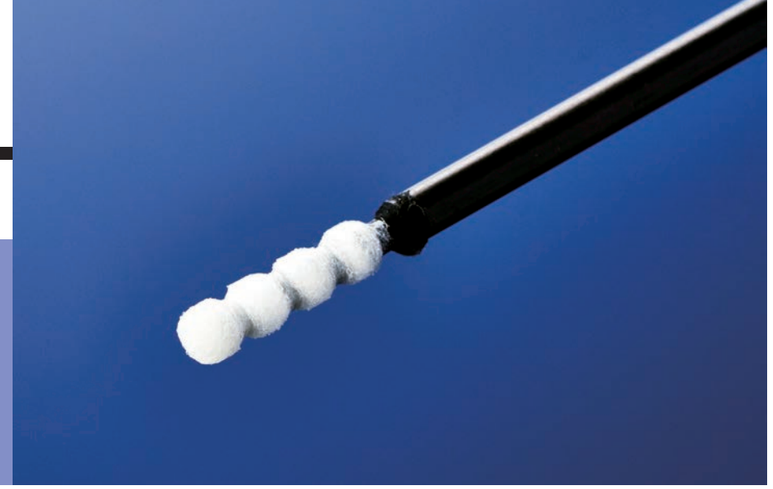
22

株式会社 山洋

綿棒ひと筋で培った 高度な加工技術を活用し、医療分野に展開



高度な加工技術で3㎜径を実現

独自の検査体制を確立している

平成２９年に創業５０周年を迎えた

事業内容

「安心・安全」をキーワードに 高付加価値製品を提供

綿棒をメーンに、綿球の製造と販売を手がける。平成29年4月に創業50周年を迎えた。創業以来「安心・安全」をキーワードに、自社設計の生産ラインで付加価値の高い商品を製造。素材や形状、使用感を追求し、独自の検査体制も確立している。一般用綿棒の売上金額ベースでは、国内約40％のシェアを誇るという。

日本品質を世界に展開し、あらゆる現場で高い評価

同社は綿棒を主に「家庭用」、「医療補助用」、「工業用」の3つのカテゴリーに分類。それぞれの用途で求められるさまざまなニーズにきめ細かく対応している。開発や生産の自由度が高く、素早い製品化を強みとしている。

グローバル化に対応し、平成20年にはベトナムにも製造工場を設立した。日本国内と同様の機械設備・技術・検査体制を構築し、また現地オペレーターの日本研修制度も設けるなど、日本同様の品質を維持している。

補助事業

3㎜径の極細綿棒を開発 臨床ニーズに応える

一般用・工業用綿棒の製造で磨き上げた高度な綿加工技術をさらに高度化し、外科手術用の「極細径綿棒」を開発する取り組み。近年、臨床ニーズが高まる極細径（3㎜）の手術器具に関して、開発の遅れている手術用綿棒について、従来の一般的な5㎜径から3㎜径へのダウンサイジングを実現した。

大阪大学と共同で研究開発を進め製品化を実現

患者の負担を軽くする腹腔鏡手術においては、臓器の把持（はじ）や挙上、また組織の剥離や圧排（あっぱい）の目的で綿棒が多く活用される。最近ではさらなる患者の負担軽減を図り、多様な手術器具の細径化が進んでいるが、綿棒の細径化は技術的に難しく、欧米製の5㎜径のものが主流となっている。

同社は短繊維にしたコットンを心棒に巻き付けた後、一定の形に立体造形する独自の技術で3㎜径を実現した。大阪大学と連携し、共同開発を進めてきた。

具体的成果

機械設備とノウハウを充実し、製品化を実現

3㎜径の外科手術用極細綿棒の開発を進めるため、補助事業を活用して電子顕微鏡やUV照射装置、検査機器や医療機器専用ラベラーなどの機械設備を拡充した。大阪大学の協力のもと、これまで計4回の前臨床研究（動物実験）を通じ開発品のテストを実施。医療現場で求められるニーズや課題、仕様の最適化などを大阪大学からフィードバックし、ノウハウを蓄積した。これらを取り入れ、製品化を実現する立体造形技術には同社独自の強みが生かされている。

手術器具の細径化ニーズ対応 医療関係者から注目

また、市場投入に向けた安全性の検査も行い、新たに導入した機械設備を活用した生産体制を構築。今後の同社における医療分野での製品展開の足がかりを作った。

すでに大阪大学において実際の外科手術で臨床試験を実施済み。学会などでの展示も行い、大阪大学以外の医療関係者からも評価を得ている。医療分野における販路開拓はこれからであるが、患者の負担を軽減する腹腔鏡手術において、手術器具のさらなる細径化ニーズは今後も続くと見られるため、普及拡大が期待される。

今後の戦略

海外展開を視野に、まずは国内市場での販促に注力

新たに開発した3㎜径の外科手術用極細綿棒の販売拡大を目指す。販売代理店と手を組み、まずは全国の大学病院に積極的にPR。学会や関連展示会にも出展し、医療関係者への認知度向上を図る方針である。

これらの取り組みを進めて1―2年の実績を勘案し、最終的には海外市場への展開も視野に入れる。医療分野で海外市場に出るには当然、リスクを伴う。まずは国内市場での展開に力を注ぎ、地盤を固めたうえで、次のステージに進む考えだ。

現在、腹腔内で使用する綿棒で国内製のものはないという。医療費削減の観点から安価な欧米製を多く使用しているのが現状だ。同社は日本製で、なおかつコストダウンにもつながる製品の提供を目指す。

「クセになってもらう」を商品開発のキーワードに

医療用関連以外でも同社の新商品開発には余念がない。近年は綿棒に対するニーズもさまざまであり、使用者に「この綿棒でないとダメ」と思ってもらえる商品を常に提案することが欠かせない。「いかにクセになってもらうか」を商品開発のキーワードとし、使い心地の良い、質の高い綿棒を提供していく。

株式会社 山洋

代表取締役　中谷 洋

〒584-0022　大阪府富田林市中野町東2−2−6

TEL. 0721−24−3376　FAX. 0721−24−9145

資本金／60,000千円　従業員／120名

主な取引先／綿棒の販売代理店、綿棒の卸商など

主な保有設備／綿棒製造機、綿球製造機、綿棒包装機など

主力製品／家庭用綿棒、医療補助用綿棒、工業用綿棒

企画力　オンリーワン技術　連携力

高機能・高付加価値を追求し、「山洋品質」を貫く

代表取締役　中谷 洋

ものづくりの原点は「お客様に喜んで頂ける製品をつくる」ことです。そのため常に高機能や付加価値を追求し、差別化を図ることを考えています。これからも、ものづくりの基本の考えを徹底し、より良い製品を提供していきます。

http://www.sa-n-yo.co.jp/

取材を終えて

医療分野での市場展開に期待

綿棒に特化したものづくりを続けてきた同社のノウハウと高い技術力は、国内でのトップシェアが証明している。医療という、いわばハードルの高い分野で認められる商品を開発できたのもうなずけるところ。医療分野での販路拡大はこれからではあるが、これまでにはなかったという日本製の3㎜径の極細綿棒に対する期待は大きいと見込まれ、今後の同社の発展が期待できる。